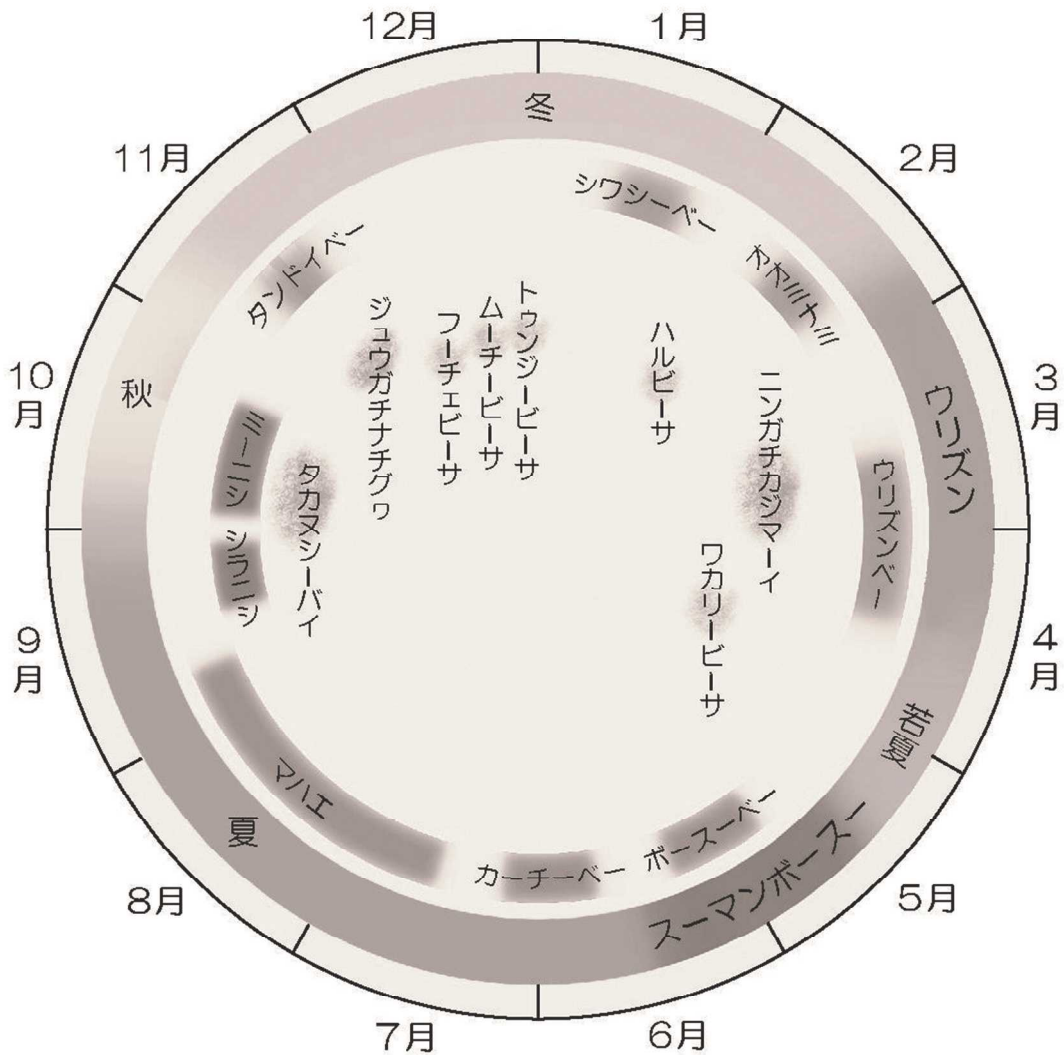


25 沖縄の季節

自然



● 亜熱帯海洋性気候 沖縄の季節・気候の特徴

日本の九州以北と比べて、沖縄には次のような特徴がある。これらは、沖縄が亜熱帯地域のアジアモンスーン帯に位置し、黒潮の影響を強く受けることによる。

- ①梅雨は一か月早く始まる。
- ②梅雨期から夏にかけては、高温多湿で曇りや雨の日が多い。
- ③夏の期間が長く6月から10月頃まで続く。
- ④台風の通り道にあり、夏季に猛烈な台風の到来が多い。夏季の台風は、大陸に発達する高気圧に押され、ほぼ琉球列島沿いに北上する。
- ⑤秋と春は短く明瞭でない。
- ⑥冬には雪や霜が見られないが、季節風が強く熱帯のような強い雨が降る。
- ⑦年間あるいは一日の気温較差が小さい。黒潮による冷却効果（夏）と温暖効果（冬）による。
- ⑧年間平均降水量が2,100～2,300mmと多雨。暖かく湿った海洋性の「小笠原気団」と、冷たく湿った大陸性の「オホーツク気団」が接することによって発達する梅雨前線と台風の影響による。

参考資料

●沖縄の季語

●季節

ウリズン（陽春）	雨が降り大地がうるおい、作物の芽が出始める季節。旧暦の2～3月頃といわれる。
ワカナツ（若夏）	気温が高くなり、ウリズンに芽吹いた草木が緑を濃くしていく季節。旧暦の3・4月頃といわれる。
スーマンボースー（小満芒種）	梅雨のこと。沖縄は日本で一番早く梅雨に入る。

●風

オオミナミ（大南風）	2月下旬頃に吹く南風。
ウリズンバー（陽春風）	ウリズンの頃に吹く南風。
ボースーバー（芒種風）	梅雨の時期に吹く風。
カーチーバー（夏至南風）	梅雨明けの夏至の頃に吹きはじめる南西の季節風。カーチーバーとともに沖縄は本格的な夏になる。
マハエ（真南風）	夏の時期に安定して吹く南東の季節風。
ミーニシ（新北風）	10月上旬頃吹き始める北東の季節風。ミーニシが吹き始めると沖縄は秋に入る。
タンダイバー（種子取り南風）	立春（新暦11月7日）の頃に吹く南風。
シワシーバー（師走南風）	旧暦の12月頃に吹く南風。

●天候

ニンガチカジマーイ（二月風廻り）	3月20日頃（旧暦2月頃）に、沖縄近海に低気圧が急に発達し、海が荒れる悪天候のこと。
ジュウガチナチグウ（十月夏小）	立冬（新暦11月7日）の頃、北東からの風が弱まり、タンダイバーが吹き暑くなる時がある。このような天候をいう。
タカヌシーバイ（鷹の小便）	10月上旬頃ミーニシの影響で天候が不安定になり小雨が降る時がある。このような天候のことをいう。

●寒さ

フーチェビーサ ^{ふいご} （鞆祭り寒さ）	フーチェとは鍛冶屋が使うふいごのこと。旧暦11月8日（新暦12月上旬）はフーチェ祝をした。この頃にくる寒さ。
トゥンジービーサ（冬至寒さ）	冬至（新暦12月22日）の頃にくる寒さ。
ムーチャービーサ（餅寒さ）	ムーチャーの日（旧暦12月8日）の頃にくる寒さ。
ハルビーサ（田植え寒さ）	2月半ばにくる寒さ。この頃田植えが行われた。
ワカリービーサ（別れ寒さ）	4月下旬から5月上旬にくる最後の寒さ。

●新暦と旧暦、一か月・一年の長さ

新暦：一か月が30.43日 一年が365.2422日 旧暦：一か月が29.53日 一年が354.37日

新暦は、太陽年365日に合わせるため、4年に一度1日（2月29日）を加える。

旧暦は、太陽年365日に合わせるため、19年に7回同じ月（うるう月）を加え1年を13か月にする。

●月の満ち欠けと旧暦

月の満ち欠けと旧暦の日には関連している。月の満ち欠けを見れば、だいたいの旧暦の日がちがわかる。また旧暦の日から、月の満ち欠けの状態を知ることができる。一日が新月、八日が上弦、十五日が満月、二十三日が下弦になる。

季節風や黒潮が沖縄の季節や気候に影響している

●アジアモンスーン帯

沖縄は、冬は大陸高気圧から吹き出す北よりの季節風、夏は太平洋高気圧から吹き出す南よりの風が多く吹く。夏の風は熱さや湿気を運び、冬の風は寒さや乾燥を運ぶ。沖縄の気候や季節は、これらの季節風の影響を強く受ける。冬と夏で風の向きが反対になる風のことを季節風（モンスーン）という。このような季節風の影響を強く受ける地域をアジアモンスーン帯という。

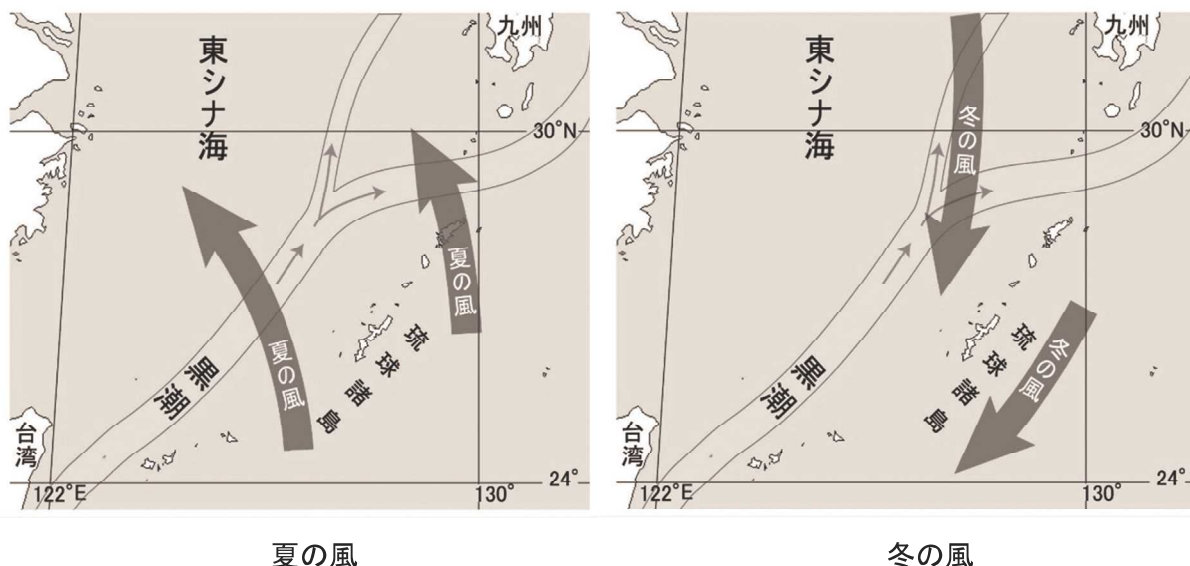
●黒潮

黒潮は、フィリピンの南から北上し、沖縄の西、九州・四国・本州の南岸を流れる大海流（ほぼ一定の向きで流れる海水）である。周囲の水よりも水温が高く海水が黒く見えることから、黒潮という名前がつけられた。その流れの幅は100～200km、深さ200～1,000m、流速は毎時2～9km、毎秒約5,000万トンで流れている。真夏の水温は29℃もあり、冬でも沖縄近くで20～22℃ある。

琉球列島は、この黒潮の影響を強く受ける海洋性気候。冬の北からの季節風はこの黒潮の上を通るため、暖められてから沖縄に近づく。そのため寒さが厳しくならない。

●亜熱帯

亜熱帯は中緯度高圧帯に位置し、サハラ砂漠やボリビア砂漠のように雨の少ない小雨帯に属する。しかし、沖縄は大陸の縁に位置する大陸島で、季節風や黒潮、周囲の気団の影響を受けることから、亜熱帯海洋性気候という気候帯となっている。



出典：沖縄の気象と天気，1990，を参考に描く

●沖縄の季節を考える

- (1) 天候や季節の言葉が入ったことわざや言い伝えを集める。
- (2) 過去の「セミの初鳴き」や「デイゴの開花」などの自然現象の情報を集め、その日にちを新暦と旧暦で比較する。
- (3) 沖縄と同じ緯度にある国々の気候や暮らしを調べる。

26 沖縄の自然と暮らし

自然

●沖縄の自然と暮らしの関わり

私たちは、大昔から現在に至るまで、自然の恵みとともに生きてきた。近代化が進んだ今もなお、衣食住、祭祀に至るまで、私たちの暮らしのあらゆる場面に自然との関わりが見えてくる。

沖縄の自然と暮らしの関わりにはどのようなものがあるだろうか？

ここでは、主に在来種や古くから沖縄に帰化した種を中心に掲載し、一般的な農産物、魚介類は除いている。

●食用

実：ヤマグワ、シークウサー、ノブドウ、ノビル、ツルナ、ホソバワダン（ニガナ）、ボタンボウフウ

葉（お茶など含む）：オキナワニッケイ（カラギ）、ゲットウ、オキナワニシヨモギ

全体：ネンジュモ（モーアーサ）

食物包み：ゲットウ、アオノクマタケラン、サンキライ（サルトリイバラ）、バナナ

●薬草

アキノワスレグサ（クワンソウ）、アマチャツル、イソマツ、ヤエヤマアオキ（ノニ）

●衣類

パナマ帽：アダン 貝ボタン：タカセガイ 笠：ピロウ（クバ）

●染料

ヤエヤマアオキ（ノニ）、オキナワシャリンバイ、フクギ、クチナシ、リュウキュウアイ、スタジイ

●繊維

糸：イトバショウ、カイコガ+ヤマグワ 紙材料：カラムシ、カジノキ、ゲットウ

●建材

材木：リュウキュウマツ、スタジイ、イヌマキ、イスノキ

屋根葺き：ススキ、チガヤ、リュウキュウチク 漆喰（むち）：サンゴ、石灰岩、ススキ

石垣：サンゴ（石灰岩）

●伝統工芸

紅型筆：リュウキュウチク 獅子舞頭部：デイゴ 琉球漆器：デイゴ、センダン

和蝋燭：ハゼノキ 三線：リュウキュウコクタン

螺鈿細工：ヤコウガイ、シロチョウガイ、クロチョウガイ、カワシンジュガイ、アワビ、アコヤガイ

陶器：各地の土壌（島尻マーシ、国頭マーシ、ジャーガルなど）

●祭祀

草冠：カニクサ（シダ）、ゴンズイ 棺桶：ヘツカニガキ 拝所への植栽：ピロウ、クロツグ

魔除け：スイジガイ、シャコガイ、クモガイ、ススキ（サン）

●生活用品

石鹸：ムクロジ、ヤブニッケイ 防虫剤：モロコシソウ 漂白剤：シークウサー

わらびカゴ：コシダ シャンプー：泥岩（クチャ） トイレットペーパー：オオハマボウ

ほうき：ススキ 扇：ピロウ（クバ） 薪：リュウキュウマツ お金：タカラガイ

●玩具

虫かご：ソテツ 紙鉄砲：クロツグ 風車：クチナシ 羽根付きの羽根玉：ムクロジ

首飾り：ジュズダマ 化粧品：ホウセンカ

●民謡・童歌

ていんさぐぬ花：（ホウセンカ）、子ぬ方星：（北極星） じんじん：（ホタル）

アンパルヌミダガーマユンタ（網張ぬ目高蟹ユンタ）：石垣島名産アンパルに生息する 15 種類のカニが登場

鷺ぬ鳥節：カンムリワシ くがつんまいふう：サシバ

27 沖縄の外来種問題

自然

●沖縄の外来種問題

長い歴史の中で、沖縄県には元々いなかった生きものが持ち込まれており、私たちの身近な動植物にも外国産が多くある。近年、人の移動や交通手段の発達により、急速に世界中の生きものが行き来するようになっており、沖縄県でもこれらの外来種の影響が見られる。

外来種問題は、私たちの貴重な自然に、昔の人が考えもしなかった影響を与えている。

その代表的な種として、マングースがあげられる。マングースは、明治時代の末に、ハブや野ネズミから農作物を守る目的でバングラデシュから数十頭が那覇市周辺に放たれた。100年以上経った現在では、沖縄島全体に生息地を広げ、多くの貴重な動物を絶滅の恐れに追い込む原因の一つとなっている。

●特定外来生物とは

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（2005年6月2日施行）」※に基づき、外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる。特定外来生物とは別に、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす疑いがあるか、実態がよく分かっていない海外起源の外来生物は「未判定外来生物」に指定され、輸入する場合は事前に主務大臣に対して届け出る必要がある。

※一般的に「外来生物法」「外来種被害防止法」などと略されている。ここでは「外来生物法」を使う。

●特定外来生物等一覧

（単位：件）

特定外来生物等	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	昆虫類	甲殻類	クモサソリ類	軟体動物	植物	合計
種類数	25	7	21	15	26	21	5	7	5	16	148

出典：環境省 HP 特定外来生物等一覧 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>

●特定外来生物等一覧

沖縄県では、近年、多くの外来種が侵入・定着し、一部の外来種は生物多様性に大きな影響を与えているとともに、人の生命・身体、農林水産業への影響もある。その脅威に対し、2015年度から外来種対策事業を行っており、有識者で構成する検討委員会を設置し、2018年6月には「沖縄県外来種対策指針」を策定している。

「沖縄県外来種対策指針」で目標として定めた生態系への影響が大きいと考えられる外来種について、「沖縄県対策外来種リスト」を策定し、選定された外来種のうち、すでに定着している種を「防除対策外来種（対策・監視等を行う外来種）」、未定着の種を「定着予防外来種（定着の予防を行う外来種）」に分け、さらに、「防除対策外来種」に対しての指定種を「重点対策種」「対策種」、「定着予防外来種」に対しての指定種を「重点予防種」「予防種」に分けている。そして産業又は公益的役割において重要であるが、適切に管理する必要がある種を「産業管理外来種」として指定している。

出典：沖縄県 HP 沖縄県外来種対策指針等について 2018.6
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kanky/shizen/hogo/gairaisyutaisakushishin.html>

●沖縄県対策外来種リスト(指定種数)

(単位：種)

分類群	防除対策外来種		定着予防外来種		産業管理外来種
	重点対策種	対策種	重点予防種	予防種	
哺乳類	5	5	1	26	0
鳥類	2	3	0	13	0
爬虫類	3	9	1	14	0
両生類	1	5	0	9	0
魚類	0	18	0	39	0
甲殻類	0	2	0	15	0
貝類	0	11	0	15	0
昆虫類	1	3	3	15	3
その他節足動物	0	2	1	6	0
その他の動物	0	4	0	2	0
植物	2	81	0	51	0
合計(371)	157		211		3

出典：沖縄県 HP 沖縄県外来種対策指針等について 2018.
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/gairaisyutaisakushishin.htm>

●沖縄県対策外来種リスト(指定種名)(一部抜粋)※は自然分布域外のもの

分類群	重点対策種	対策種	重点予防種	予防種	産業管理外来種
哺乳類	ノイヌ、フィリマン グース、ノネコ	カイウサギ(アナウ サギ)、ハツカネズ ミ ドブネズミ	アライグマ	フクロギツネ、 ハリネズミ属、 リスザル	該当種なし
鳥類	コウライキジ インドクジャク	シロガシラ シマキンバラ(アミ ハラ)、ギンバラ	該当種なし	ウスラ、 コリンウスラ、 カナダガン	該当種なし
爬虫類	グリーンアノール タイワンスジオ タイワンハブ	※ヤエヤマセマルハ コガメ、※ヤエヤマ イシガメ、ミナミイ シガメ	カミツキガメ	ワニガメ属、 チュウゴクセマルハ コガメ、 ニホンイシガメ	該当種なし
両生類	オオヒキガエル	※ミヤコヒキガエ ル、ウシガエル、 ※ヌマガエル	該当種なし	チュウゴクオオサン ショウウオ、アフリ カツメガエル、特定 外来生物のヒキガエ ル属(オオヒキガエ ルをのぞく)	該当種なし
魚類	該当種なし	シルバーアロワナ、 ゲンゴロウブナ、 パールダニオ	該当種なし	ガー科、 オオタナゴ、 ソウギョ	該当種なし
甲殻類	該当種なし	タテジマフジツボ、 アメリカザリガニ	該当種なし	アメリカフジツボ、 ヨーロッパフジツ ボ、北アメリカフジ ツボ	該当種なし
貝類	該当種なし	アフリカマイマイ、 スクミリンゴガイ、 ラブラリンゴガイ	該当種なし	オオクビキレガイ、 マダラコウラナメク ジ、ヤマヒタチオビ	該当種なし
昆虫類	サイカブト(タイワ ンカブトムシ)	タイワンヤツボシハ ンショウ、シロテン ハナムグリ台湾亜 種、カンショオサソ ウムシ	アルゼンチンアリ、 アカカミアリ、ヒア リ(アカヒアリ)	外国産クワガタム シ、外国産テナガコ ガネ属、外国産カブ トムシ(ただし、サ イカブトをのぞく)	セイヨウミツバチ、 セイヨウオオマルハ ナバチ クロマルハナバチ
その他 節足動物	該当種なし	ハイロゴケグモ、 ヤンバルトサカヤス デ	セアカゴケグモ	キョクトウサソリ 科、アトラクス属、 ハドロニユク属	該当種なし
植物	ツルヒヨドリ、 アメリカハマグルマ	オオサンショウモ、 トクサハモクマオ ウ、パンノキ	該当種なし	ミカツキゼニゴケ、 ヤツデグワ、 ケクロビア・シュレ ベリアナ	該当種なし

参考資料

28 自然公園及び自然観察マップ

自然

●沖縄の自然公園とラムサール条約登録湿地、自然観察ができる公園

■ 国立・国定公園  野鳥が観察できる
■ 県立自然公園  どんぐりが観察できる
● ラムサール条約登録湿地  干潟の生きものが観察できる



●自然観察ができる公園

国頭村	国頭村森林公園	浦添市	浦添大公園
東村	東村民の森つつじエコパーク	那覇市	沖縄の杜
今帰仁村	乙羽岳森林公園		末吉公園
名護市	名護城中央公園		奥武山公園
恩納村	沖縄県民の森	南風原町	宮城公園
宜野座村	漢那コリアゲの森緑地公園	糸満市	沖縄県平和創造の森公園
沖縄市	沖縄県総合運動公園	宮古島市	上野大嶽城址公園
中城村	中城公園	石垣市	バンナ公園

参考資料